

第29回 電顕サマースクール 2018 in 信州松本

生物の電子顕微鏡試料作製法を理解しよう
 =クライオから3次元コンピュータグラフィックスまで=

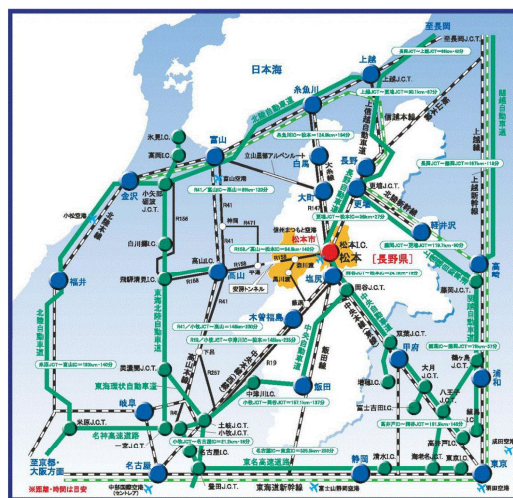
開催日： 2018年 8月4日（土）～ 5日（日）

会場： 信州大学医学部地域保健推進センター
 （信州大学松本キャンパス内：長野県松本市）

主催： 公益社団法人 日本顕微鏡学会



実行委員長 寺田 信生（信州大学）
 副実行委員長 高木 孝士（昭和大学）



(信州松本ハンプレットより)

講演内容

「動物試料の固定・脱水・包埋の基礎」	立花 利公 先生	（東京慈恵医科大学）
「包埋試料の超薄切片作製から透過型電顕観察へ」	高木 孝士 先生	（昭和大学）
「生きた動物臓器の機能形態像を探る：凍結技法の意義」	大野 伸一 先生	（山梨大学名誉教授）
「クライオ電顕の試料作製とテータ解析」	小田 賢幸 先生	（山梨大学）
「走査型電顕による生物試料の3次元超微形態解析」	大野 伸彦 先生	（自治医科大学）
「イオン液体の生物電顕試料への応用」	桑畑 進 先生	（大阪大学）
「標的物質の局在を電顕で見る包埋前染色法」	秋元 義弘 先生	（杏林大学）
「免疫電顕法：包埋後染色法と抗原賦活化」	山下 修二 先生	（慶応大学）

協賛企業講演

- 「マイクロ世界を可視化する電子顕微鏡の概要」（日立ハイテク/ロジー）
- 「電子顕微鏡で見る生体試料の3次元構造」（サーモフィッシャー FEI）
- 「細胞組織学のための凍結技法から広がる電子顕微鏡法：
 徳安法と高圧凍結法・凍結置換法」（ライカ マイクロシステムズ）
- 「走査型電顕（SEM）の基礎から生物応用へ」（カールツァイス）
- 「走査型電顕（SEM）による最新の生物試料観察例
 ～ 低真空SEMからFE-SEMまで～」（日立ハイテク/ロジー）
- 「光と電子のコラボレーション - アレイトモグラフィー CLEM
 （光電子相関顕微法）の紹介 -」（日本電子Nikon）

実習

- 専門スタッフが丁寧にお教えします！
- 「固定法～包埋～超薄切～電子染色」
- 「急速凍結、生体内凍結技法、凍結置換固定法」
- 「連続切片走査型電顕試料の3次元テータ解析」
- 「免疫電顕法・包埋前染色法」
- 「包埋後染色法・抗原賦活化法」

事務局

公益社団法人 日本顕微鏡学会事務局
 〒162-0814 東京都新宿区新小川町4-21-401光風ビル
 TEL：03-6457-5156 FAX：03-6457-5176
 E-MAIL: jsm-basic@microscopy.or.jp

くわしくはウェブサイト <http://microscopy.or.jp/summerschool/> をご覧ください。